

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

11月中旬、松本短期大学で開催された公開講座を聴講するため松本に向かった。途中では、J2松本山雅が競技場サンプロアルウィンで4年ぶりのJ1昇

格と初優勝を目指して臨んだ徳島との対戦を観戦する多くの観衆の車で大渋滞。県内各地で繰り広げる取り組みに長野の底力が伝わってくる。

今回の公開講座のテーマは「私らしく生きる事 脳のしくみと心とからだ」、講師は松本短期大学介護福祉学科・学科長の木村友恵さん。保育・医療・福祉分野において地域への貢献を目的に開催された。講座の紹介の文面「人間の行動はどのような仕組みになっているの? 気持ちはどこからくるの。脳について理解を深める事は、自分自身を知ること

とつながり、より良い生き方、より良い人生の為の契機になります」。私らしく生きることを一緒に考えてみませんか。に医学的な興味を持って聴講する。

約2倍に、3〜4歳で約90%のほぼ完成になるため、この間は良い環境や良い刺激を心がける事。11〜17歳の思春期の脳は反抗的で攻撃的な大人になる為の通過儀礼の仕組みを理

ぶ。
料理の焼き魚の盛り付け方法で、一般的に右利きの人、視野の左側を重要視する能の仕組みがあり、日本的な伝統礼法「左を上位、右を下位」とする「左

脳の仕組みと心とからだを理解する事が自分らしく生きること大切だ

心は1637年にデカルトが脳にあると定義、心の精神的な活動である、「知性・感情・意思・記憶・ことば」の5分類を解説。生まれたばかりの赤ちゃんは脳の重さは大人の3分の1、生後6カ月で

解していれば、大人になれば感情の起伏を前頭葉が巧みにコントロールして人間らしく高次の精神機能が発揮出来るようになる。考える事が大切との、考え方の持ち方

人を育てる知恵を学

きな思考を大切に繰り返す事が大切な事を知

ラムを発表。歌と音楽で一緒に行ったプログラムが、現場で効果が発揮できる事を願った楽しい体験した1日でもあった。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



講師の木村さん。介護福祉現場では、スペシャリストとしての倫理観を持った技術の大切さを伝えた